研究部だより

令和5年１０月発行　ＮＯ．１０

研究主題
「児童生徒が学びをつなぐ」
教育課程の編成

中学部　学部授業研究会実施

中学部３年の職業・家庭科で学部授業研究会が行われました。今回は、当日の様子を中心にお伝えします。

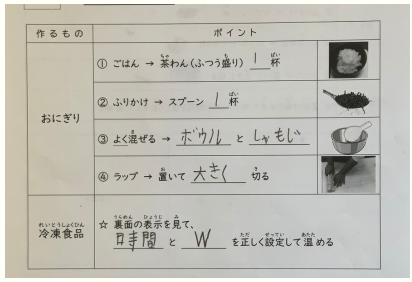
中学部３年　職業・家庭科　バランスのよいお弁当を作ろう

＜授業者のしかけ＞
自分のお弁当
～お弁当作りの意欲につなげるために～

＜生徒の様子＞
・一人に一つ弁当箱を用意し、生徒が希望したおかずをつめることにしたことで、「おいしいお弁当を作れるようになりたい」と、よりポイントを意識しながら調理をするようになった。

＜授業者のしかけ＞
視覚的に分かりやすいポイントの掲示
～困ったときに手掛かりにできるように～

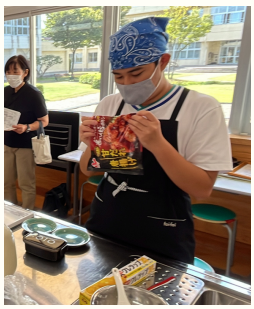
＜生徒の様子＞
・前時までに確認したおにぎり作りのポイントと電子レンジで温めるときのポイントを、写真を入れて分かりやすく掲示したことで、掲示を手掛かりに一人で調理を進めていた。



作るもの	ポイント
おにぎり	① ごはん → 茶わん(ふつう盛り) 1 杯
	② ふりかけ → スプーン 1 杯
	③ よく混ぜる → ボウル と しゃもじ
	④ ラップ → 置いて 大きく 切る
冷凍食品	☆ 裏面の表示を見て、時間 と W を正しく設定して温める

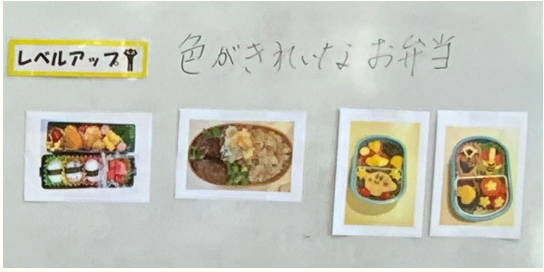
＜授業者のしかけ＞
一人１台の調理台
～生徒の自信につなげるために～

＜生徒の様子＞
・一人で１台の調理台を使用できるようにしたことで、「自分で作った！」という達成感につながり、できたときによい表情で喜んでいたり、できたお弁当を自慢気に見せたりする姿が見られた。



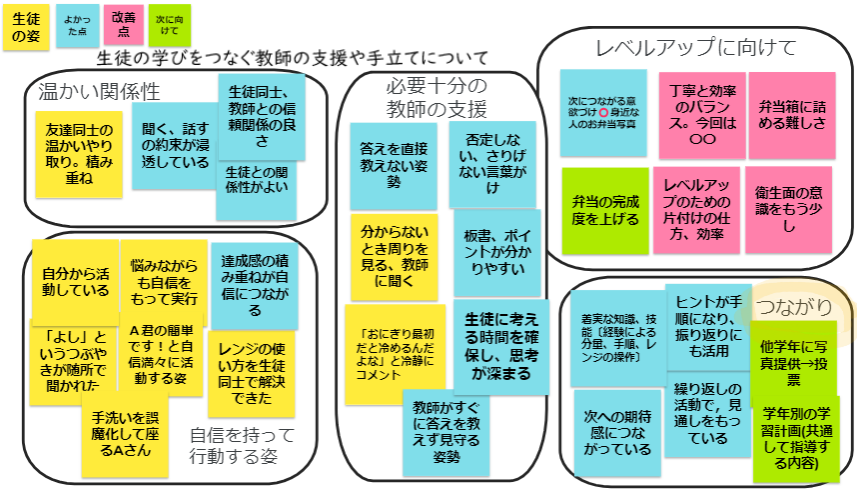
＜授業者のしかけ＞
レベルアップ課題の提示
～次時への意欲につなげるために～

＜生徒の様子＞
・教師が作ったお弁当を実際に見せたことで、お弁当に注目が集まり、「きれい」、「おいしそう」などと発言していた。
・「色」に注目するよう話しながら数種類のお弁当の写真を見せたことで、赤はミニトマト、黄色は卵焼き、緑はブロッコリーなど、彩りのよいお弁当について考えていた。



研究会の協議から

「生徒の学びをつなぐ」ための教師の支援、手立てなどについて



【協議で話題になった主な内容】
- 生徒同士や教師との温かい関係性が見られた。
- 繰り返しの活動により、自信をもって取り組む様子があった。
- 困ったときこそ指導のチャンス。
- バランスのよいお弁当、お弁当を詰める難しさ。
- 衛生面や片付けの方法。

【今後に向けて】
- 弁当の完成度をどのようにてあげていくのか考える。（盛り付けの見本やお弁当写真など）
- 他学年に弁当の写真を見せ、学習内容を知ってもらったり、投票をしてもらったりする。
- 職業・家庭科の学習内容を他学年にも知ってもらう機会を設定する。
- 家庭と連携し、学校での取り組みを知ってもらい、家でも生かす。
- 洗剤の量、洗い方、準備、後片付けなどの効果的なやり方、方法を指導する。

講評　秋田大学教育文化学部　教授　藤井　慶博先生

【講評】
- 学びをつなぐ実践ができている授業だった。学びをつなぐために人と人とがよくつながっていた。協力する、教える、助ける、生徒同士の対話などがあったが、今回の授業だけで作られるものではない。日頃の学級経営がうまくいっている様子が分かる授業だった。
- 障害の有無に関わらず、人は一人では生きていくことができない。できない部分を助けてもらったり、相手を助けたりすることはとても大切である。また、サポートを受ける力も必要である。
- ニュートンの「巨人の肩にたつ矮人」という言葉がある。これは、小さい人でも巨人の肩に乗ることで、遠くに見渡せるように、できないこと、苦手なことは人の力を借りながら解決していくことを表している。
- 学びをつなぐために、今回の授業の振り返りでは、おいしく弁当を作ることができた成果を共有し、次は弁当の彩りを考えて弁当を作るというレベルアップした学習内容を提示していた。授業づくりは連続ドラマのようである。終盤に次の課題やポイントを示すことで生徒のモチベーションにつながっていて、次時への学習の工夫が見られた。
- 今回の授業では、めあてを「おいしいお弁当を作ろう」とし、レッツ型のめあてであったが、そこで終わらず、おいしくお弁当を作るためのポイント（ご飯の量、ふりかけの量、ご飯の混ぜ方、ラップの大きさ）を四つ具体的に示していてよかった。しかし、授業の時間が足りずに、四つの具体例に沿って振り返りができなかったことが残念だった。知的障害の生徒の短期記憶が難しい実態を考え、食べながら評価をしたり形成的評価を大事にしたりしてほしい。
- 知的障害の学校では、より具体的な内容で指導していくが、その副作用として応用が効かなくなってしまう。環境や条件が変わってもできる（生きて働く力）を付けられるようになってほしい。（例）電子レンジのメーカーや型が違っても一人で操作して温められる。
- 教科としての職業・家庭科と合わせた指導の生活単元学習との違いを考え、教科としての在り方、学びをつなぐための方策を考えて授業づくりをしてほしい。